

第30回 東日本本部 拡大委員会を開催!



議長
東京地本
横倉委員

副議長
東京地本
湊委員



(組合員の購読料は
組合費に含まれます)
港区新橋5-15-5
交通ビル
国労東日本本部
発行責任者 高野苗実
編集責任者 伊藤隆夫

No. 735 定価
20円
2013年
3月1日

周りの仲間を信頼し
組織拡大
まず一人から
<http://www.e-nru.com>
携帯用ホームページはこちらのQRコードから

委員からの 発言

国労東日本本部は、2月8日に仙台市で第30回拡大委員会を開催しました。討論では、青年部からの特別発言を含め15名が行い、13春闘、組織強化・拡大をはじめとする当面する闘争方針を全体の拍手で確立しました。また、協約・協定の締結では、JR東日本関係の「労働条件に関する協約」「一旦指定した勤務及び休日等の取扱いに関する協定」については、議論の保証を求め発言があり、討論終了後に挙手による採決で承認されました。討論書記長集約の後、「委員会宣言」を確立し終了しました。

① へ神奈川・小澤委員

職場ではメンタル面の問題が山積している。職場実態・職場環境を改善するチェック機能こそが労働組合の基本的役割。
◆雇い止めとなったGS社

② へ新潟・藤井委員

この交流会を契機に奮闘していく決意。また2月23日の拡大地方委員会の前段でも組織拡大についての春闘学習会を開催。さらに全体で意思統一し、前に出る運動を実践し進めていく。
◆貨物会社は13年連続のベアゼロで生活実態は極めて厳しい状況。ストライキを含む闘いを要請する。

③ へ仙台・遊佐委員

2013年問題、東日本会社は昨年秋の団体交渉で、エルダー制度を基本にするとの話だったが、エルダーに行つて月に15回も夜勤をさせられて、とても体が持つのか、というところが重点的に交渉を65歳まで働きたい人は雇用するように切に願う。

④ へ東京・恒本委員

職場では長時間・過密労働で体調を崩し、過労で倒れる人も発生。労働者が競わされて、協力・助け合いの関係が失われている。また、同じ職場に様々な雇用形態で働く人がいて分断されている。日常業務や勤務終了後もCSやPT、マイ



委員長挨拶 要旨 目標に向け 全力を

併せて、働きやすい職場環境と働きがいのある労働条件の確立が必要不可欠であります。今後、粘り強く検証に基づく見直し・改善を取り組み「安全・安定」輸送確立に取り組んで行かなければなりません。

「労働条件に関する労働協約」について、東日本本部は、JR東日本との間で昨年10月締結・調印を行いました。この協約の締結は、「正常かつ健全な労使関係」に向けた取り組みと同一線上のものであり、今後の国労の運動展開にとって必要不可欠であるとの判断から締結・調印に至ったものです。締結後も、様々な意見はあることを認識しつつ今後の協約改定に向けた取り組みに9地本が一丸となって取り組むことをお願いいたします。

次に、安全・安定輸送の確立と労働条件改善について、「安全・安定」輸送確立に向けた「技術力の維持向上と継承・発展」をどうしていくのか会社との率直な議論が必要であると思っております。

改善を求め交渉してきた。問題」の解消について、更なる取組みを要請する。

◆「労働条件に関する協約」と「一旦指定したく協定」については中身が重要であり、従来の拍手ではない採決を求める。

◆今回のJR東日本ステーションサービスの「労使間」の取扱いに関する協約を足がかりに、その他の出向先においてもエリア本部として協約を締結し、直接の団体交渉が行える体制を作って頂きたい。

◆「JR長野鉄道サービス連絡会」を結成した。今後は労働条件に関する協約も視野に委託会社の労働実態を見つめ直し改善要求を作り上げる。

◆地本としてJR千葉鉄道サービス会社に対し、就業規則含め抜本的な見直しや

⑧へ水戸・出羽委員

◆昨年11月24日にフクシマ放射能問題交流会を行い、仙台地本福島支部と水戸地本福島支部の組合員が参加し交流。低線量被ばくの問題については東日本本部として社員の健康管理を徹底するよう引き続き会社に求めて頂きたい。

◆検修外注化実施後の様々な問題はJRの管理体制が問われている。出向会社の問題を軽視すれば安全・安定輸送の崩壊に繋がることを認識すべき。

⑨へ大宮・片嶋委員

◆車掌からの出向先が、ほとんど清掃業務が委託駅業務に集中しており、全員が出向に関して不安を持っている。

この会社施策の不備の解消、定年後も安心して働き続けられる環境、労働条件作りが切に求められている。退職後の国労加入率にも影響を及ぼしている。早急に2013年問題の回答を引き出し、出向に伴う情報の開示と本人の希望に叶う出向先の斡旋、そして労働環境改善に向けた取り組みの強化をお願いする。

⑩へ高崎・横田委員

◆組織強化・拡大について

昨年12月と今年1月に2名の仲間が国労に復帰した。自らが国労組織に自信を持ち、職場から地域に広め、地域での闘いを主体的に担うこと。また職場における労災・職業病、特に多くの職場で発症している精神疾患に対し労働組合としてしっかりと取り組みを行うことが求められている。

⑪へ盛岡・阿部委員

◆急激な世代交代の状況とそれに伴う技術継承の課題。エルダー社員の受け皿として駅業務や検修業務の委託化は、より拡大の傾向にあり、出向先であるグループ会社との労働条件改善が大きな課題。

◆そのためにグループ会社との労使間協約の締結や「組織拡大」をも視野に入れた運動の展開を進め、闘いのすそ野を広げる中で再び国労を大きくすることが求められている。

⑫へ仙台・山田委員

◆放射能汚染は拡散し続けている。会社に対して再度除染や線量計の配付、健康診断の徹底などを行うよう交渉して欲しい。

◆宮城・福島の沿岸部で津

波警報が発令された地震の際でも、避難指示にも関わらず、列車が動いていた。会社の災害に対する構えがどうなっているのか、改めて問いたただいて欲しい。

⑬へ秋田・久米委員

◆組織拡大について、昨年10月に秋田地方本部組織拡大総決起集会を開催し意思統一した。地本では意識と連帯を強めるために昨年6月から組織拡大を達成した機関に激励行動を継続している。

⑭へ八王子・水越委員

◆八王子地区本部では、組織対策の会議を随時開催。昨年以降4名の組織拡大を得た。

◆「闘いのすそ野を広げること」は、国労の運動領域をJR関連で働く全ての仲間

の立場に立つことである。JR東日本ステーションサービスをはじめ、他のグループ会社との関係についても具体的に出来る運動の提起を東日本本部に求める。



書記長集約

一つ一つの課題を精一杯闘い抜こう

1. 労働条件に関する協約の締結と今後の取り組み

◆第24回大会で提起し、2年余の間議論を積み上げてきた。協約の締結は2006年の一括和解でスタートさせた、「労使がルールに基づき責任を持って課題に向き合う」という道筋を、今回の協約締結により更に鮮明化し、加速させるものであるとの認識である。

2. JR東日本ステーションサービスの発足とグループ会社における国労運動の展開から組織強化・拡大

◆旧東京4支社の駅業務を受託している環境アクセスから駅業務を分離し、新たなJR東日本の完全子会社として「JR東日本ステーションサービス」が本年4月1日にスタートする。

3. グループ会社と一体となった業務体制の更なる推進

◆昨年11月の段階で地方でのブロック別会議等を開催してきた。具体的な事業実施が先送りになっている現状などを踏まえて、現在開設している「合理化対策会議」を継続し、これまでの議論を活かせる取り組みを図っていく。

4. 2013年問題・エルダー社員制度「改正」と出向先労働条件の改善

◆昨年12月、13年問題に絞った交渉を開催した。現段階において、全く示されていないのはJR東日本のみであり、制度が示されない現状が、来年度以降退職される組合員・社員の大きな動揺と不安を招いている。

5. 2013年春闘の取り組み

◆今後、当該地方本部である東京地本・運輸職協との連携を密にして取り組んでいく。また、同時に「ステーションサービス対策会議」を設置し、対応を図る。

◆提案後の速やかな対応について各級機関と連携して取り組む。また、出向先での労働条件・就労条件に関する諸課題については、東日本本部としても大きな課題であると受け止めている。

◆今回発足する「ステーションサービス」への取り組みを起点にし、グループ会社との労使間のルールに基づいた取り組みを進めていくこととし、労働協約改訂に向けた具体的な取り組みの中の労働条件改善・職場アンケートを出向者・エルダー社員を含めた全組合員対象に行っていく。

◆6. 平和と民主主義を守り今夏の参議院選挙をはじめとした選挙闘争勝利に向けた取り組み

Advertisement for Affac cancer insurance. Text: 「最新のがん治療に合わせて進化したアフラックの新しい「がん保険」です。」 Includes Affac logo and contact information for Abe-nieru Co., Ltd.